

京都市子育て支援に関する市民ニーズ調査について

1 調査概要

(1) 目的

小学校入学前および小学生の子どもを養育する家庭の子育ての状況や子どもや子育て支援に関するニーズを把握し、今後の本市の子育て支援施策の充実に向けた基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 実施状況

			調査対象者（配布数）	有効回収数	有効回収率
小学校入学前児童調査			6,500 件	3,191 件	49.1%
小学生児童調査			6,500 件	3,202 件	49.3%
(参考)	平成 25 年調査	小学校入学前児童調査	6,500 件	3,008 件	46.3%
		小学生児童調査	6,500 件	2,649 件	40.8%
	平成 20 年調査	小学校入学前児童調査	6,100 件	2,742 件	45.0%
		小学生児童調査	4,200 件	1,747 件	41.6%

2 主な調査結果（案）

※ 以下のページ番号は、全て参考資料 1 の京都市子育て支援に関する市民ニーズ調査のページ番号を指す。

(1) 子育て家庭の状況

○ 小学校入学前・小学生共通

ア 子どもと家族の同居・近居の状況 (P7) 小学校入学前：問 5 (1), (P225) 小学生：問 5 (1)

小学校入学前，小学生ともに「父母と同居」の割合が 9 割前後，「祖母と近居」が 2 割弱，「祖父と近居」が 1 割台半ばとなっている。

祖父母と近居の割合が前回調査よりも減少している。

イ 子どもの育児や家事等への関わりの状況 (P19) 小学校入学前：問 10, (P240) 小学生：問 10)

小学校入学前では，すべてにおいて母親が最も関わっており，父親については，前回調査よりも関わりの割合が少しずつであるが上昇している。

父親の関わりでは，特に入浴や遊び相手，しつけへの関わりが高くなっており，小学生では，入浴や着替えについては，子ども自身が行う割合が高くなっている。

ウ 子育てをしている今の気持ち (P137) 小学校入学前：問 25, (P292) 小学生：問 20)

「楽しい」の割合が小学校入学前では 7 割弱，小学生では 6 割弱となっており，「不安・負担を感じる」が小学校入学前では 2 割台半ば，小学生では 3 割程度となっている。

子育てで楽しいと感じること (P144) 小学校入学前：問 26, (P301) 小学生：問 21) では，小学校入学前，小学生ともに「子どもの成長・発達に感動した」の割合が 9 割前後となっている。

また，子育てで日頃感じる不安 (P145) 小学校入学前：問 27, (P302) 小学生：問 22) では，小学校入学前，小学生ともに「子どもの教育費」「子どもの将来」が多く挙げられている。

エ 子育ての相談先 (P161) 小学校入学前：問 28, (P316) 小学生：問 23)

小学校入学前，小学生ともに「配偶者・パートナー」「祖父母等の親族」「友人や近隣の住民」が順に多く挙げられている。

○ 小学校入学前

ア 子育てに関して知りたい情報 (P174) 小学校入学前：問 36(1))

「子どもと一緒に参加できるイベント情報」の割合が5割台半ばとなっており、「幼稚園・保育施設等に関する情報」「医療機関に関する情報」「子どもの病気児への対処方法」も3割程度となっている。

イ 子ども連れでの外出時の移動手段 (P193) 小学校入学前：問 42(1))

「自動車」が4割台半ば、「自転車」が3割弱、「ベビーカー」が1割弱となっており、自転車・ベビーカー・徒歩での平均的な移動距離 (P194) 小学校入学前：問 42(2)) では、ベビーカー・徒歩で1,500m未満、自転車で1,000m以上が多くなっている。

ウ 子どもと外出する際の困りごと (P196) 小学校入学前：問 43)

「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所が少ないこと」、「小さな子どもとの食事に配慮された場所が少ないこと」、「歩道の段差等がベビーカーや自転車の通行の妨げになっていること」が順に多く挙げられている。

(2) 子育ての環境と支援

○ 小学校入学前・小学生共通

ア 子どもを預けられる人の有無 (P14) 小学校入学前, (P235) 小学生：問 9(1))

「緊急時等に子どもを預けられる祖父母等の親族がいる」の割合が最も高く、小学校入学前では6割程度、小学生では5割程度となっている。

一方で、「いずれもない」は小学校入学前、小学生ともに約2割となっており、前回調査よりもわずかに上昇している。

イ 子育てで近所・地域の人々に期待すること (P186) 小学校入学前：問 40, (P339) 小学生：問 34)

小学校入学前、小学生ともに、子どもの安全確保のための配慮や声かけ、身近なコミュニケーションが多く挙げられている。

○ 小学校入学前

ア 幼稚園・保育施設等の利用 (P39) 小学校入学前：問 12(1))

「利用している」が最も高く、利用している施設の種別では、「保育園(所)」が最も高く、次いで「幼稚園」が多く挙げられている。

前回調査との比較では、幼稚園・保育施設等の利用者は増加している。

イ 子どもの病気・病後時の対応 (P80) 小学校入学前：問 15(1))

子どもが病気や病後であるため、幼稚園・保育施設等を利用できなかったことがあったと答えた家庭が半数以上となっている。

また、病気・病後時の対処 (P81) 小学校入学前：問 15(2)) については、「母が仕事を休んだ」が最も高く、「父親が仕事を休んだ」は、増加傾向にあるものの、母親に比べると低い水準にある。

ウ 子育ての仲間の有無 (P180) 小学校入学前：問 37)

「いる」の割合が約9割となっている。一方で、子育てサークル等の自主的な活動への参加状況 (P181) 小学校入学前：問 38(1)) では、「現在参加している」が1割未満、「現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない」の割合が6割程度、「現在は参加していないが、今後参加したい」が3割程度となっており、参加していない理由 (P184) 小学校入学前：問 38(3)) では、時間がないことや人間関係のわずらわしさ、身近なサークル等の情報不足が挙げられている。

エ 平日日中の子どもの遊び場 (P188) 小学校入学前：問 41)

「自宅」の割合が 5 割台半ば、「公園・ちびっこひろば」が 1 割程度となっている。

○ 小学生

地域で実施されている子育て世帯向けの事業の参加状況 (P332) 小学生：問 32(1))

回答者の約 6 割に参加経験があり、学校や自治会が運営する事業によく参加 (P335) 小学生：問 32(2)) しており、自身の子育てが地域の人に支えられているかを問う設問 (P185) 小学校入学前：問 39, (P337) 小学生：問 33) では、「感じる」が小学校入学前では約 5 割、小学生では 6 割程度となっている。

(3) 子育て家庭の就労状況及び子育てと仕事の両立

○ 小学校入学前・小学生共通

ア 保護者の就労状況 (P23) 小学校入学前, (P246) 小学生：問 11(1))

父親は、「就労している（フルタイム）」の割合が小学校入学前、小学生ともに 9 割前後となっている。

母親は、小学校入学前では、「現在就労していない」が 3 割台半ば、小学生では、「就労している（パートタイム、アルバイト等）」が 4 割程度と最も高くなっており、前回調査よりも「就労している」割合が上昇している。

イ 母親の現在就労していない理由 (P35) 小学校入学前, (P258) 小学生：問 11(3))

小学校入学前、小学生ともに「2. 子育てのため」が最も多く挙げられており、現在就労していない母親の今後の就労希望では、小学校入学前・小学生ともに「1 年より先に就労したい」の割合が最も高くなっており、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が最も高くなっている。

ウ 父親の子育てへの関わりが少ない理由 (P164) 小学校入学前：問 30, (P321) 小学生：問 25)

小学校入学前、小学生ともに「残業や休日出勤等が多く、仕事を優先せざるを得ないこと」が多く挙げられており、子育てと仕事の両立を支援するため社会全体で最優先に取り組むべきこと (P167) 小学校入学前：問 31, (P324) 小学生：問 25) では、小学校入学前、小学生ともに「子どもの用事の時に休める制度や時間単位休暇制度」が多く挙げられている。

○ 小学校入学前

育児休業の取得状況 (P130) 小学校入学前：問 24(1))

「取得した」の割合が父親で 1 割未満、母親で約 4 割となっている。

取得していない理由 (P132) 小学校入学前：問 24(2)) では、父親では「仕事が忙しかった」、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が多く挙げられている。

母親では「子育てや家事に専念するために退職した」、「職場に育児休業の制度がなかった」が多く挙げられている。

3 ニーズ調査結果の考察の視点

視点1 小学校入学前児童の居場所

保育園（所）、認定こども園、幼稚園等を利用する家庭が増加している中であっても、保育施設等以外の子どもの遊び場の少なさを困りごととして挙げられていることを踏まえ、ニーズに対応する「身近な遊び場や居場所」の整備や利用の促進が必要である。

視点2 孤育てに陥らない地域での支援

幼稚園・保育施設等を利用する家庭が増え、子育てサークル等については参加していない方が多い状況であるが、それでも小学校入学前の保護者では多くが「子育て仲間とのつながりを持っている」と回答している。

一方で、核家族化が進行し、子どもの祖父母と同居している割合も減少していることを踏まえると、孤育てに陥らないよう、引き続き、親同士が気軽につながることができる機会を提供していく等の支援が必要ではないか。

また、地域の支援については、半数以上の方が感じると回答しており、保護者が地域に求める支援では、「子どもの見守り」や「子どもとのコミュニケーション」などが挙げられており、子どもを地域の宝として大切に育てる本市ならではの「はぐくみ文化」の更なる醸成が必要ではないか。

視点3 子育てと仕事の両立支援

父親の育児や家事等の関わりについては、前回調査よりも改善の傾向がみられるが、一方で、子育てしながら就労する母親が増加していることを踏まえると、父親が更に家事・育児を率先して行うことを促進し、夫婦間の偏りを軽減していく必要がある。

また、子育てと仕事の両立のためには、職場だけでなく、社会全体で育児休業の取得を促進する環境づくりや、ワーク・ライフ・バランスに対する個人の意識改革などに取り組む必要があり、引き続き、様々な角度・手法により啓発をしていく必要があるのではないかと。

視点4 子育て情報等の発信

小学校入学前では、「インターネットの子育て情報サイト」で情報を入手する割合が、「京都市のホームページやアプリ」等の割合を上回っていることを踏まえ、保護者がより利用しやすくなるよう、情報を精査し、より求められている情報を発信していく必要があるのではないかと。

また、世間における「子育てに関する不安」、「お金がかかる」等のネガティブな情報だけではなく、子育てをしている方の気持ちでは「楽しい」と回答される方が大半であることを踏まえた、子育てに関するポジティブな情報発信が必要ではないかと。